

【1】 Achievement Card (AC) の目的

HIRAKU-Global (HG) では、育成対象教員 (HGR) の中間評価 (育成3年目) , 及び、修了評価 (育成5年目) の際にパフォーマンスレビューを実施する。若手研究者のパフォーマンスレビューとして意味のあるものとするために、パフォーマンスレビューの一環として、ACを構築する。HGRは育成開始とともにIDP (Individual Development Plan) を作成し始め、各人のメンターと面談するとともに、IDPを更新している。ACの構築は、各HGRが、自身のIDPの進捗状況を確認することでもある。なお、ACは、各HGRの自己評価及びコメントの部分以外は、基本的にHG-officeにおいて作成する。

育成3年目の中間評価にあたり、ACを使って、HGRが各自のIDPに記入した目標や計画をふまえて、育成期間の前半 (約3年間) の活動状況や計画達成状況を自覚し自己評価する。その過程において、育成期間の後半に向けて、より活発な研究活動を進めていく方向を、HGR自らが考え、確認していく。

育成5年目の修了評価にあたり、3年目に作成したACに5年分の実績を追加記入し、5年間で俯瞰する。各HGRが、育成期間である5年間の全体を振り返り、今後の自身の研究活動に力強く踏み出していくための心構えをもつ。

【2】 Achievement Card (AC) の内容

(2-1) IDP概要 ビジョン、短期/長期行動計画について、各HGRのIDPから抽出した概要を掲載。

(2-2) Activity Record 次の[1]~[6]の項目について、年度経過がわかるように記載。

各項目の詳細データを別途、HGRごとにリスト化し、随時参照する。

(可能なものは事務的にあらかじめ作成) ([1]は年別、他は年度別の記載)

- [1] SCI等論文 (育成開始年までと育成開始年以降各発行年別の論文数)
- [2] 研究資金 (種類別、総額 (直接経費+間接経費) 明示) (各大学の通常校費は記載しない)
- [3] 国際的な研究交流 (海外渡航の実績) (年度別に記載)
(実際に渡航しなくても、オンラインで国際共同研究を進めた場合も記載)
- [4] 招待講演 (国際的な学会) (国内学会でも英語で発表した招待講演) (年度別の記載)
- [5] HG活動への参画 (年度別に記載)
- [6] 特記事項 (産学連携等。メディアへの掲載や分野特性も考慮し特記すべき業績など。)

(2-3) HGR自身による自己評価とコメント

(2-3-1) 上記[1]~[3]のそれぞれについて、HGRが4段階で自己評価し、コメントを入力。

(2-3-2) HGR自身による、総合的なコメント

HIRAKU-Globalプログラム開始前と比べて、HGプログラム参加したことによって、どのような影響を受け、どのように変わったのかについて、端的に記載。

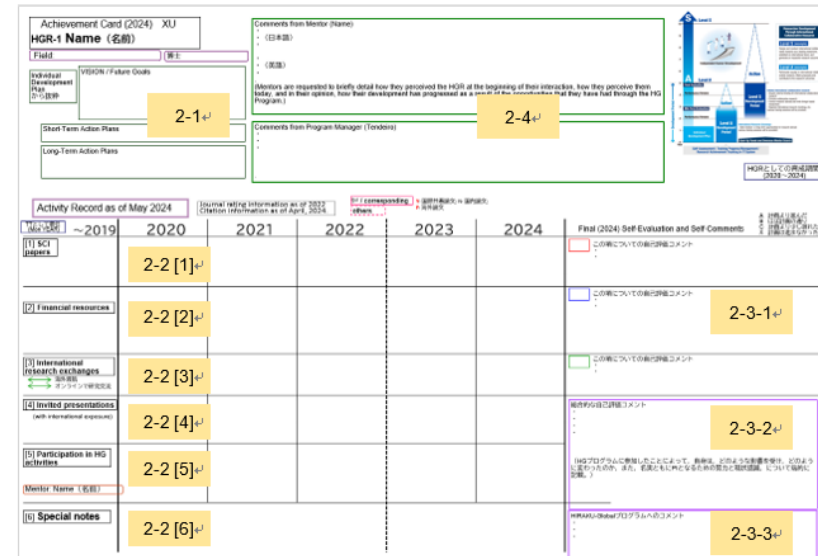
(2-3-3) HGRからの、HIRAKU-Globalへのコメント

HIRAKU-Globalプログラムへのコメントを端的に記載。

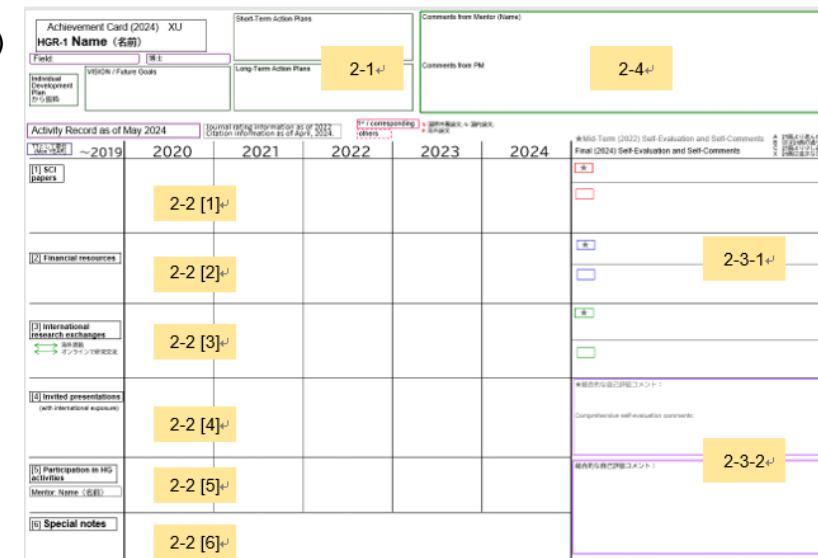
(2-4) 各HGRに対するコメント (HGプログラム開始前と比べて、どのように変わったか等)

- ・担当メンターからのコメント
- ・PMからのコメント

テンプレート (中間評価)



テンプレート (修了評価)



修了評価の際には、中間評価の際の自己評価と自己評価コメント ((2-3-1)及び(2-3-2)) を、文字の色を紫色にして残しておく。そのうえで、修了評価の際の自己評価と自己評価コメントを記入。